

令和4年度 大阪市立摂陽中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和4年度 大阪市立摂陽中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年	実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3年	学校	136	60	44	43	7.5	14.6	4.7
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

2 中学生チャレンジテスト

学年	実施月日	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	137	46.4	48.8	47.2	51.9	46.0	15.0	6.1	12.1	6.5	8.4
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
9月6日	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1
2年	学校	116	54.4	36.7	45.3	51.3	46.7	9.2	6.8	15.2	7.5	6.7
	大阪市	—	58.7	44.6	48.1	52.6	55.2	8.6	5.9	15.8	8.3	6.4
1月11日	大阪府	—	59.6	44.4	49.0	53.1	56.1	8.5	6.3	16.1	8.7	6.5
1年	学校	133	51.0	46.8	48.1	45.9	46.1	15.1	6.8	9.4	7.3	7.7
	大阪市	—	57.8	51.8	54.2	55.0	58.3	12.1	4.9	7.6	5.3	5.1
1月11日	大阪府	—	58.6	—	55.0	—	59.1	12.5	—	8.0	—	5.3

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年	実施月日	生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	126	95.8	101.9	160.0	96.3
10月18日	大阪市	—	102.8	105.4	152.4	96.6

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	29.33	27.44	40.77	53.52	76.76	—	8.12	199.09	18.05	42.00
	大阪市	28.88	26.10	42.66	51.66	77.74	425.87	8.08	196.13	19.98	40.80
	全国	28.99	25.74	43.87	51.05	78.07	409.81	8.06	196.89	20.28	41.04
2年 女子	学校	25.40	20.63	43.12	47.53	51.58	—	9.00	174.92	11.06	47.84
	大阪市	23.08	21.91	45.40	46.34	51.72	321.08	9.07	166.28	12.26	47.00
	全国	23.21	21.67	46.07	45.81	51.60	302.89	8.96	167.04	12.45	47.42

令和4年度 大阪市立摂陽中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●「全国学力・学習状況調査結果」

昨年に比べて、全体の平均正答率が改善してきた。しかし今回も、国語は9.0ポイント、数学は7.4ポイント全国平均を下回る結果となった。また、平均無解答率は全国平均を上回っている。教科ごとの結果は以下の通りである。

<国語>

「漢字の書き」や「ことばの意味」については正答率が高く、情報の扱い方に関する事項で「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問いでは、全国平均に僅か-2.4ポイントであった。課題としては、「表現技法の理解」に関する問いで、全国平均に-15.0ポイントと、大きく差が開いた。

<数学>

「証明の理解」については正答率が高く、全国平均に-1.1ポイントに迫った。「確率の理解」においては全国平均を0.5ポイント上回る結果となった。課題としては、「一次関数の理解」で-15.8ポイントと大幅に低く、「連立方程式」や「素因数分解」など基本の計算問題の正答率も低かった。

<理科>

「実験計画」の問いについては全国平均に-0.8ポイント、「化学変化の知識」の問いについては-1.8ポイントと、「粒子」を柱とする領域の正答率が比較的高かった。課題としては、「力の働きに関する知識技能」で-6.4ポイント、「静電気に関する知識技能」で-12.3ポイントと、「エネルギー」を柱とする領域の正答率が大きく下回る結果となった。

<質問紙調査>

「勉強は好きですか」の各教科の項目で、肯定回答が全国平均を上回った。特に、「国語の勉強は好きですか」については79.5%と、全国平均を17.6ポイントも上回った。

しかし、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」や「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」についての肯定回答は、全国平均に比べてかなり低く、自分から進んで学習をすることや、家庭学習の定着に課題が見られる。

●「中学生チャレンジテスト(3年生)」

<成果>

平均点は大阪府と比較して、各教科4～9ポイント下回る結果となったが、昨年に比べると平均正答率は改善した。「知識・技能」に関する問いについては、いずれの教科も他分野に比べて正答率が高い傾向にあった。

また、アンケート調査においては「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」についての肯定回答が、大阪府平均に比べ8.5ポイント低かった。しかし、同項目における校内比較では、昨年に比べ肯定回答が22.7ポイント上昇した。その他、「自分の考えや意見を伝える場面がある」についても、昨年より20.8ポイント上回る結果であった。

<課題>

各教科とも平均無回答率が大阪府より上回った。検証用グラフの分布図を見ても、記述式の正答率が低い傾向にある。特に国語科や英語科においては、文章を読み、質問の意図を読み取り、正しい正解ができるよう繰り返し学習させることが課題である。

また、アンケート調査の「普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか」について、3時間以上使用すると回答が49.7パーセントと、非常に高い数値となった。

●「中学生チャレンジテスト(2年生)」

全体の平均正答率を府平均と比べると、国語-5.2ポイント、社会-7.7ポイント、数学-3.7ポイント、理科-1.8ポイント、英語-9.4ポイントとなった。教科ごとの分析は以下の通りである。

<国語>府平均に比べ5.2ポイント下回った。領域で見ると、知識・技能に比べ思考判断表現の問題のほうが低かった。依然、記述式の正答率が低いと、今後も選択肢の内容を吟味し、本文の描写に即して考えさせる練習に取り組んでいく。

<社会>府平均に比べ、7ポイント以上下回る結果となった。特に資料やグラフの読み取り問題につまずきがあった。今後も復習をしながら学力を定着させる必要がある。

<数学>観点別では、知識・技能では大阪府と-2.0、思考・判断・表現では-1.7であった。今後も毎授業時に基礎的な問題を小テストとして実施していく。

<理科>「思考・判断・表現」の力を要する設問の正答率が低かった。特に、計算が必要な問題は府平均に比べて、大きく下回っている。実験の結果からわかることを考察させる活動を通して、「思考・判断・表現」の力を養い、計算問題に関しては基本的な計算を正確に解けるよう取り組む。

令和4年度 大阪市立摂陽中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

〈英語〉「書くこと」は-3.9ポイントと少し開きがあったが、「読むこと」「聞くこと」に関しては、府平均に比べ、-3ポイント以内にとどまり、一定の成果を見ることができた。

●「中学生チャレンジテストならびに大阪市版チャレンジテストplus(1年生)」

全体の平均正答率を府平均(社会・理科は市平均)と比べると、国語-7.6ポイント、社会-5.0ポイント、数学-6.9ポイント、理科-9.1ポイント、英語-13.0ポイントとなった。教科ごとの分析は以下の通りである。

〈国語〉府平均より7.6ポイント低い正答率であった。特に漢字を書く問題や語句の意味に関する問いは誤答が多かった。書字や古文、文章の内容に対して適するものを選択する問題については府平均と大差なく、一定の成果はあったと感じる。また無解答率は府平均より低い問題が多く、取り組む意欲は感じられた。

〈社会〉市平均に比べると、5.0ポイント下回る結果となった。特に歴史分野での差が大きく、記述の問題に誤答や無回答が目立っていた。ただし、地理分野での、「日本の姿」に関しては大阪市の平均より3ポイント上回るものもあり、一定の成果を見ることができた。

〈数学〉府平均と比較すると、-6.9ポイントという結果であった。特に数と式の分野での差が大きく見られた。過去問で対策した問題に関しては、府平均を上回るものもあり、一定の成果を上げることができた。

〈理科〉市平均と比べ10ポイント近く下回っている。正答率をみても、市平均よりも20～30%台の人数が多い。授業で復習の機会を増やし、基礎知識を定着させられるよう工夫していく。

〈英語〉大阪府平均より、約15ポイント下回る46.1ポイントという結果となった。全体的に平均を下回ったが、特に「書くこと」に関しては得点率が低い。しかし「聞くこと」に関しては必要な情報を聞き取り、正しい答えを選択することができた。今後の対策としては、英文にできる限り触れ、内容理解を深めていくとともに、基本単語や基本文型の知識定着を図る取り組みを増やすことが不可欠である。

●「大阪市英語力調査(GTEC)」

〈成果〉

「書くこと」では、平均スコア160.0と大阪市平均を7.6ポイント上回ることができた。また、スコアは下回ったが「話すこと」では-0.3ポイント、「聞くこと」では-3.5ポイントと、大阪市平均に迫るスコアであった。

CEFR A1レベル同等以上の割合は大阪市平均55.8%に対して、51.6%といった結果であった。

〈課題〉

「読むこと」のスコアが他に比べて低く、大阪市平均に比べ-7.0ポイントであった。5W1Hを注視しながら、文章の大まかな流れを理解しながら読み進められるよう重点的に学習を進めていく必要がある。

●「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

〈成果〉

男子については、握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、体力合計点において、大阪市平均・全国平均を上回った。女子については、握力、反復横跳び、立ち幅跳び、体力合計点において、大阪市平均・全国平均を上回る結果となった。

質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の回答結果では、「好き」と答えた生徒の割合は男子が60.4%、女子が43.1%、「やや好き」と答えた生徒の割合は男子が25.0%、女子が29.4%となり、肯定的な回答をした生徒の割合が、男子は大阪市平均・全国平均を下回ったが、女子では大阪市平均を上回る結果となった。

また、1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合は男子が6.6%で大阪市平均・全国平均よりも少なく、1週間の総運動量は十分に取れていることが分かった。しかし、女子が34.0%で大阪市平均・全国平均よりも多く、1週間の総運動量が十分に取れていないことが分かった。

〈課題〉

日々の授業の補強運動の充実と、過去の新体力テストのデータを有効活用して、意欲的に授業に取り組ませた。その結果、男女ともに体力合計点において大阪市平均、全国平均を上回ることができた。また、男女ともに握力、反復横跳び、立ち幅跳びは大阪市平均、全国平均を上回り、「筋力」、「敏捷性」、「瞬発力」が備わっている生徒が多いと考えられる。一方、ハンドボール投げにおいては男女とも大阪市平均、全国平均ともに大きく下回る結果となり、前年度に引き続き、「投げる力」の向上が課題であることがわかった。

質問項目「保健体育の授業は楽しいですか」の回答結果では、男女ともに肯定的な回答をした生徒が大阪市平均を上回った。このことから、授業で大切にしている、「皆が楽しめる授業」が展開できていることが伺える。

その一方で、平日1日あたりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機などによる映像の視聴時間が増加していることも大きな問題だととらえている。

今後は生徒の興味・関心・意欲を引き出す取り組みを推進するとともに、「皆が楽しめる授業」を展開し、運動が好きで、生涯にわたって運動に親しむ姿勢を育てていきたい。

令和4年度 大阪市立摂陽中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【今後に向けて】

学力の向上については、「全国学力・学習状況調査」や「中学生チャレンジテスト」の結果から、授業内ではもちろんのこと、授業以外の時間でも、復習する時間の確保が必要不可欠と考える。内容の要約や自分の考えを記述するようなことは、基礎基本の知識の上に成り立つものであるから、どの教科においても基礎基本の定着を重点的に進められるよう、復習プリントや小テストを定期的を実施していく。また、自学自習の習慣を身につけるため、学校力アップコラボレーター・学びサポーター・学校元気アップサポーターの協力のもと、「放課後学習会」を実施し、授業時間以外の学習を習慣化していきたい。

英語力については、C-NETとの授業において発表する機会や定型表現を使う活動を積極的に取り入れていく。また、定期的にスピーキングテストを実施し、生徒一人ひとりが発表する場を増やすようにする。

体力・運動能力の向上については、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めるとともに、保健体育の授業の工夫・改善を図り、生徒の興味・関心・意欲を引き出す取り組みを推進していくことが必要だと考えられる。

生活習慣の面では、携帯電話やスマートフォンを使用する時間が多いので、フィルタリングサービスを活用するなど使用のルールを確認し、家庭と協力してSNSトラブルに巻き込まれない・巻き込まないよう指導していく。

今後も、各調査結果を教職員で共有し、充実した学習活動を推進すべく、学校全体で取り組んでいく。

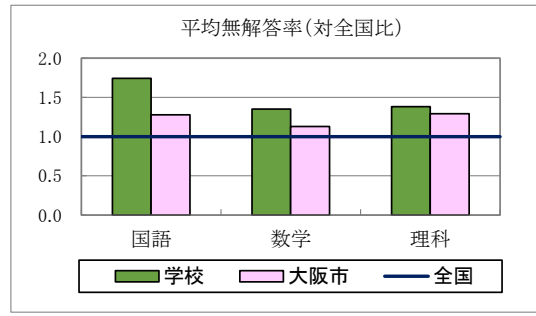
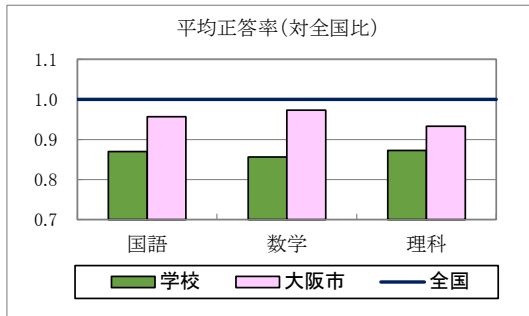
令和4年度 大阪市立摂陽中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)		
	国語	数学	理科
学校	60	44	43
大阪市	66	50	46
全国	69.0	51.4	49.3

	平均無解答率(%)		
	国語	数学	理科
学校	7.5	14.6	4.7
大阪市	5.5	12.2	4.4
全国	4.3	10.8	3.4

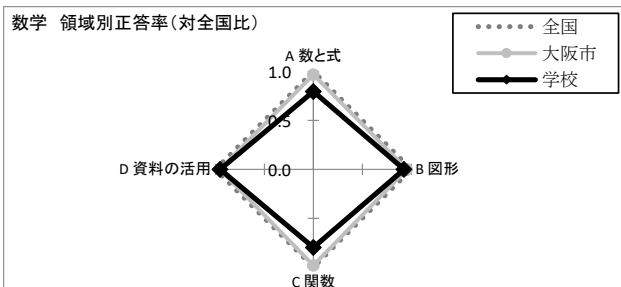
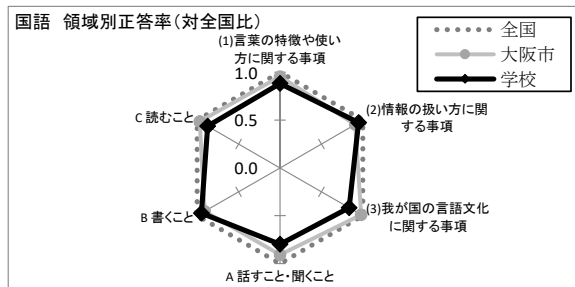
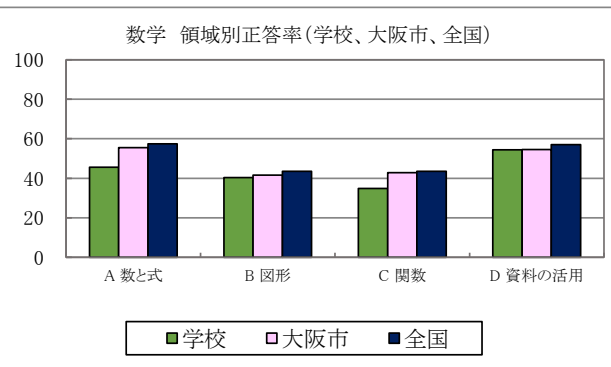
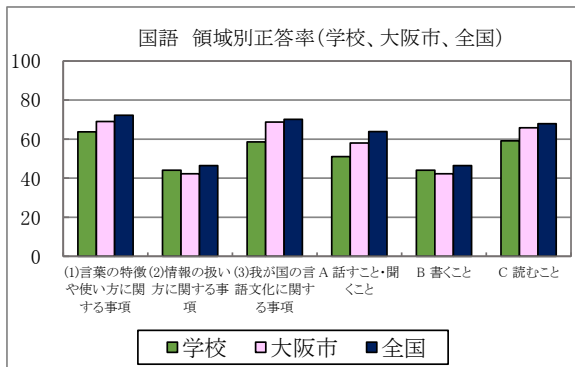


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	6	63.7	69.0	72.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	44.1	42.2	46.5
(3)我が国の言語文化に 関する事項	3	58.6	68.8	70.2
A 話すこと・聞くこと	3	51.0	58.0	63.9
B 書くこと	1	44.1	42.2	46.5
C 読むこと	2	59.2	65.8	67.9

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	45.6	55.5	57.4
B 図形	3	40.4	41.6	43.6
C 関数	3	34.8	42.8	43.6
D データの活用	3	54.4	54.5	57.1

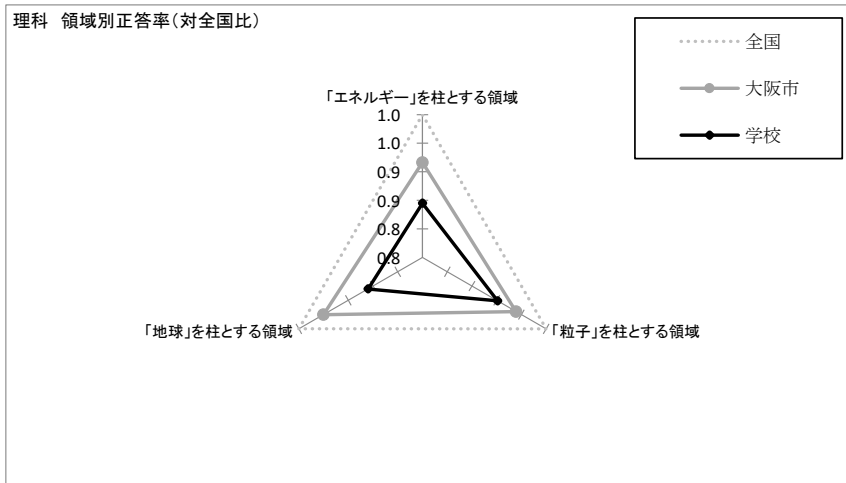
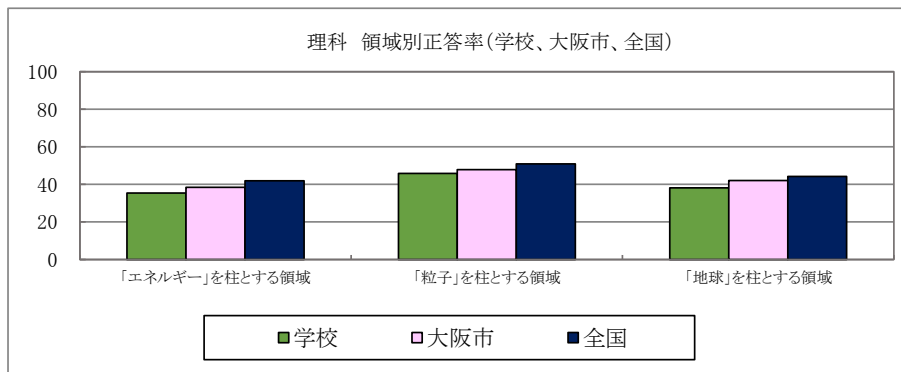


令和4年度 大阪市立摂陽中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

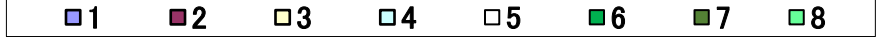
【理 科】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
「エネルギー」を 柱とする領域	6	35.4	38.4	41.9
「粒子」を柱とする 領域	5	45.9	47.8	50.9
「生命」を柱とする 領域	5	50.5	52.3	57.9
「地球」を柱とする 領域	6	38.1	42.1	44.3

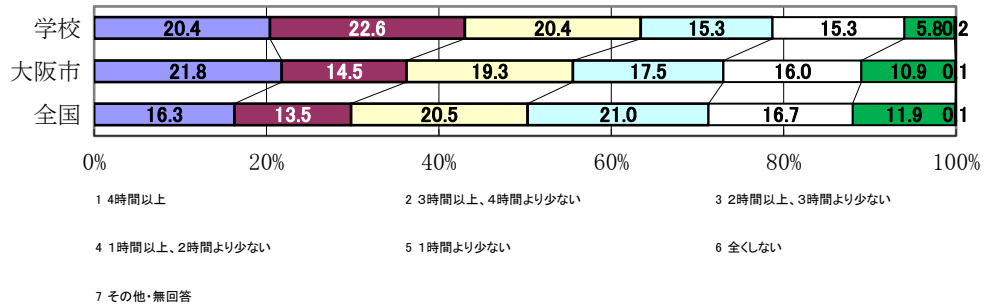


令和4年度 大阪市立摂陽中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

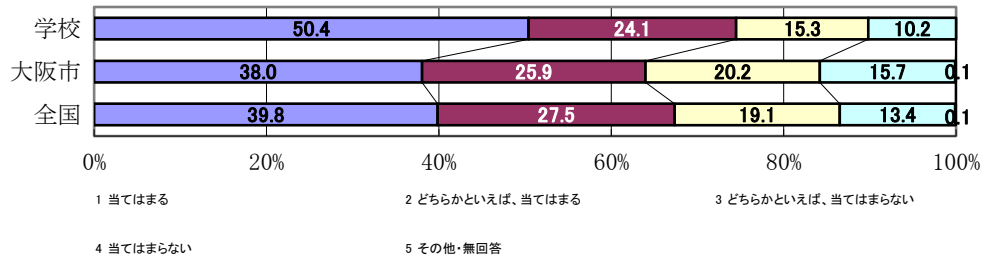
生徒質問紙より



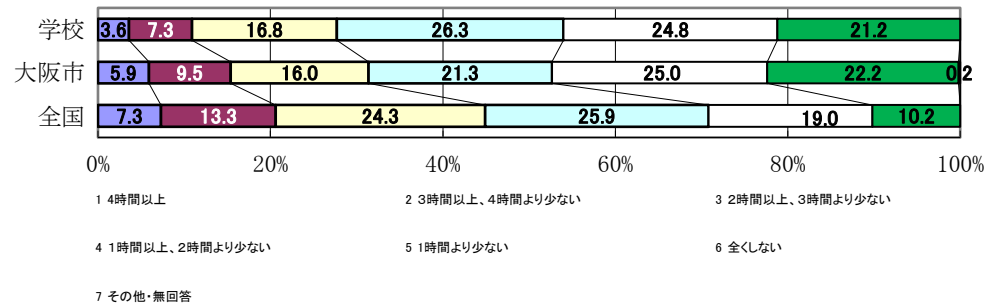
質問番号
質問事項
5
普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



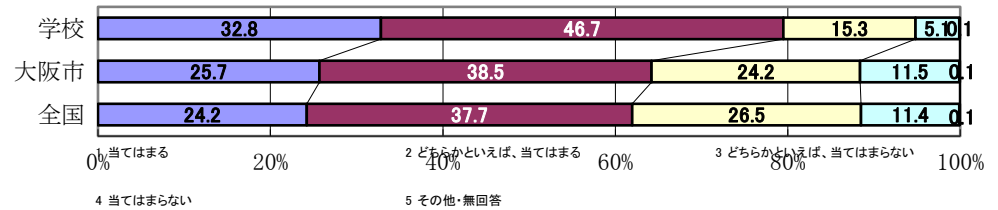
質問番号
質問事項
9
将来の夢や目標を持っていますか



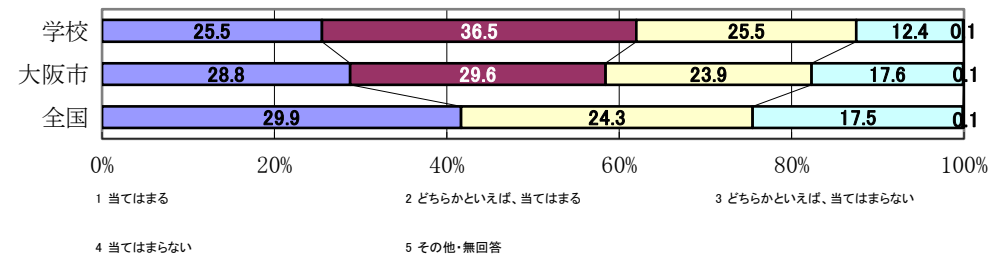
質問番号
質問事項
22
土曜日や日曜日など学校が休みの日に, 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間, インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



質問番号
質問事項
国語の勉強は好きですか



質問番号
質問事項
53
数学の勉強は好きですか



令和4年度 大阪市立摂陽中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問紙より

□ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 □ 8 □ 9 ■ 10

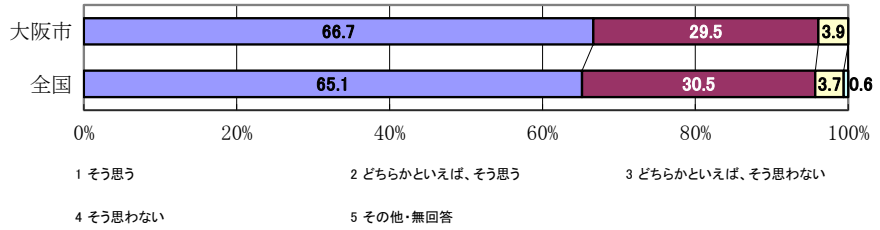
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

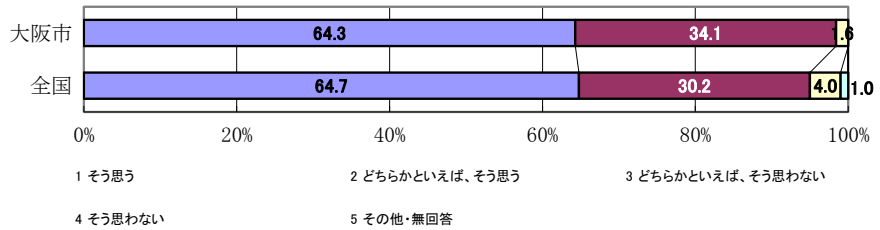
学校 「そう思う」を選択



11

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか

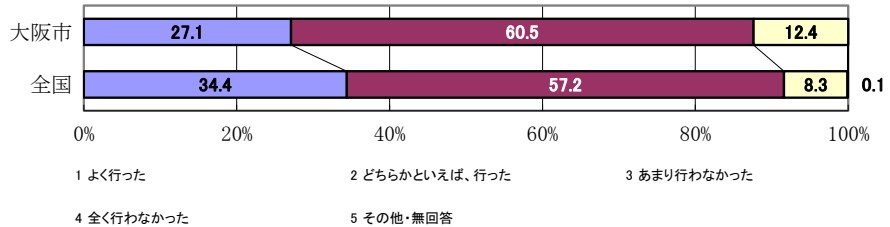
学校 「そう思う」を選択



38

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか

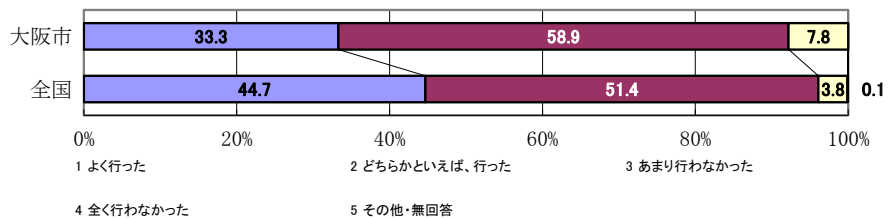
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



41

調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか

学校 「よく行った」を選択



54

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

